

宮崎県感染症週報

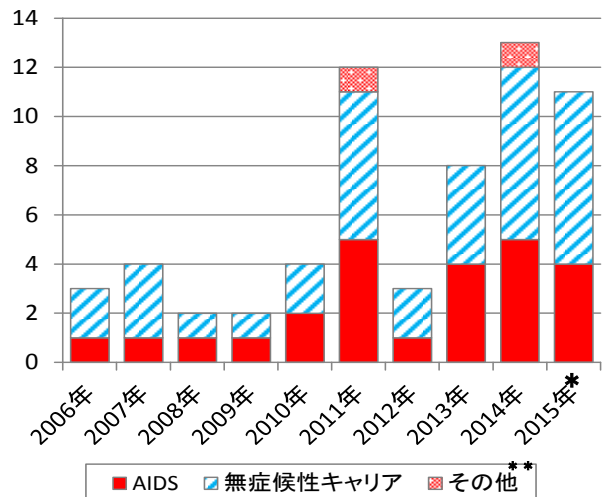
宮崎県健康増進課感染症対策室・宮崎県衛生環境研究所

宮崎県第28週の発生動向

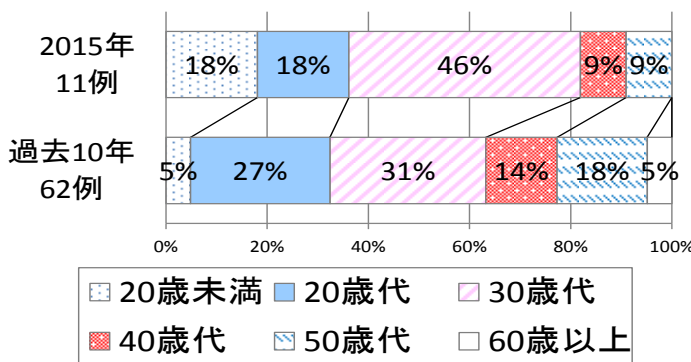
トピックス

・**後天性免疫不全症候群**（全数報告の感染症）の報告が宮崎市保健所から3例あった。病名は無症候性キャリアが1例、AIDSが2例であった。県内の今年の報告数は累計11例となり、現行の感染症法となった平成11年以降最も報告数の多かった昨年の第28週累計報告数(4例)の約2.8倍と多い。年齢群別では30歳代が全体の46%を占める。また、推定感染経路は性行為感染が全体の82%を占める。

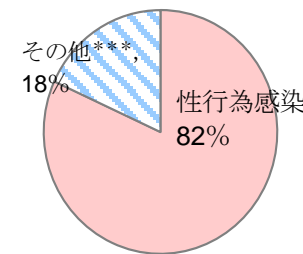
年別累計報告数の推移(過去10年間)



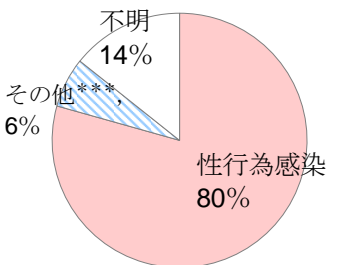
年齢群別割合



推定感染経路別割合 (2015年1~28週 11例)



【参考】推定感染経路別割合 (過去10年間累計62例)
注) 同一人複数経路あり



2015年*: 第1週~第28週のデータ
 その他**: AIDS指標疾患以外の発症例
 腸管外アメーバ症等
 その他***: 刺青等

全数報告の感染症 (28週までに新たに届出のあったもの)

1類感染症: 報告なし。2類感染症: 結核4例。3類感染症: 腸管出血性大腸菌感染症1例。
 4類感染症: 報告なし。5類感染症: 急性脳炎1例、後天性免疫不全症候群3例。

	疾患名	報告保健所	年齢群	性別	病型、病名	症状等
2類	結核	宮崎市	20歳代	男	肺結核	症状なし
			80歳代	男	肺結核	咳、痰、発熱、呼吸困難
		延岡	70歳代	男	肺結核及び粟粒結核	咳、痰、発熱、呼吸困難、意識障害、腹痛
		中央	70歳代	女	肺結核	発熱
3類	腸管出血性大腸菌感染症	高鍋	40歳代	女	—	症状なし O不明(VT1産生)
5類	急性脳炎	高鍋	40歳代	男	病原体不明	発熱、痙攣、意識障害
			20歳代	男	無症候性キャリア	—
	後天性免疫不全症候群	宮崎市	20歳代	男	AIDS	発熱、咳嗽、全身倦怠感等 指標疾患:カンジダ症、ニューモシスチス肺炎
			30歳代	男	AIDS	指標疾患:非結核性抗酸菌症

□ 定点把握の対象となる5類感染症

・定点医療機関からの報告総数 989 人（定点当たり 29.4）で、前週比 91%と減少した。前週に比べ増加した主な疾患はA群溶血性レンサ球菌咽頭炎と伝染性紅斑と流行性耳下腺炎で、減少した主な疾患はヘルパンギーナであった。

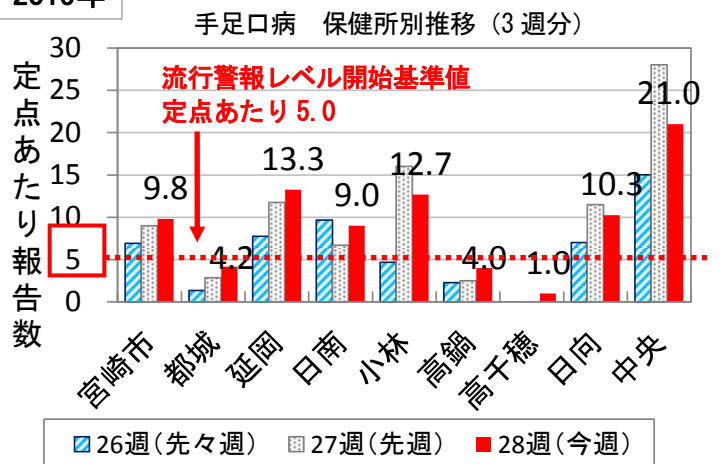
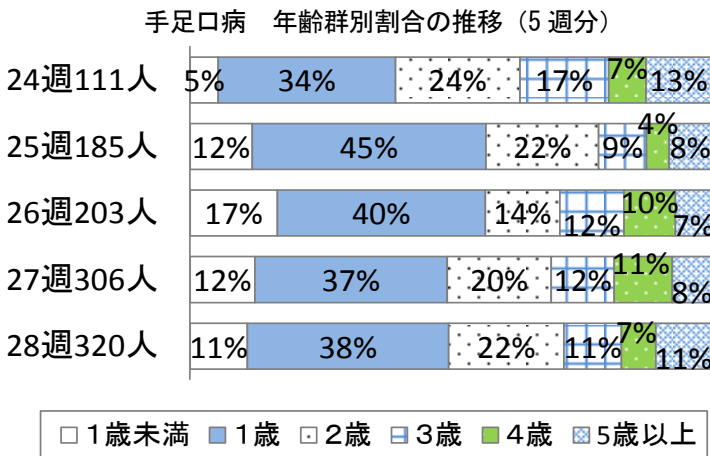
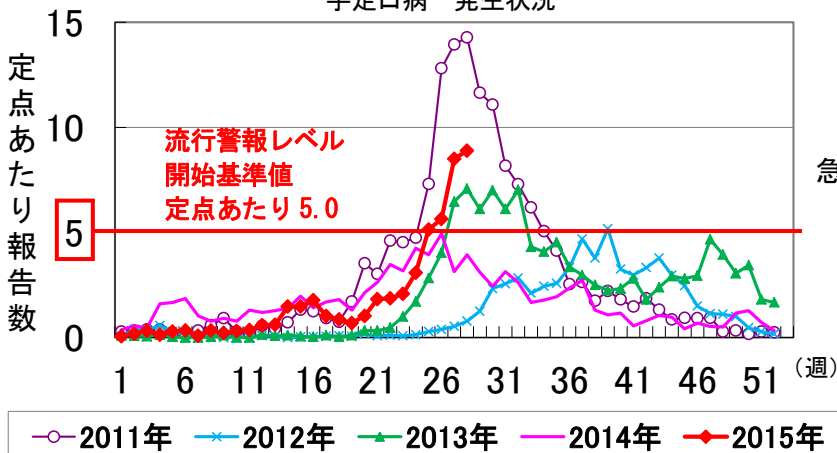
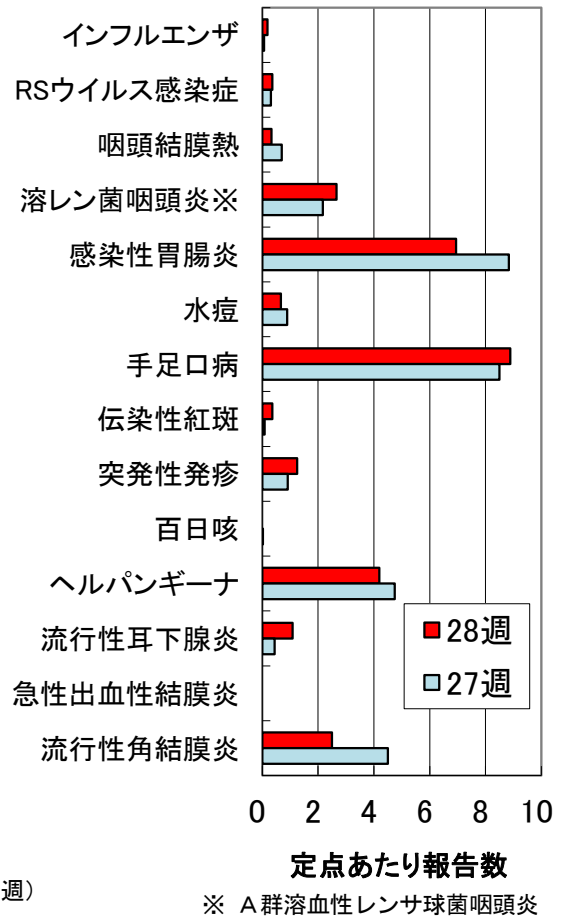
★インフルエンザ・小児科定点からの報告★

【手足口病】

・報告数は 320 人（8.9）で、前週比 105%とやや増加した。流行警報レベル開始基準値を 4 週連続で超過した。例年同時期の定点あたり平均値*（5.8）の約 1.5 倍と多い。中央（21.0）、延岡（13.3）、小林（12.7）保健所からの報告が多く、年齢別は 1～2 歳が全体の約 6 割を占めた。

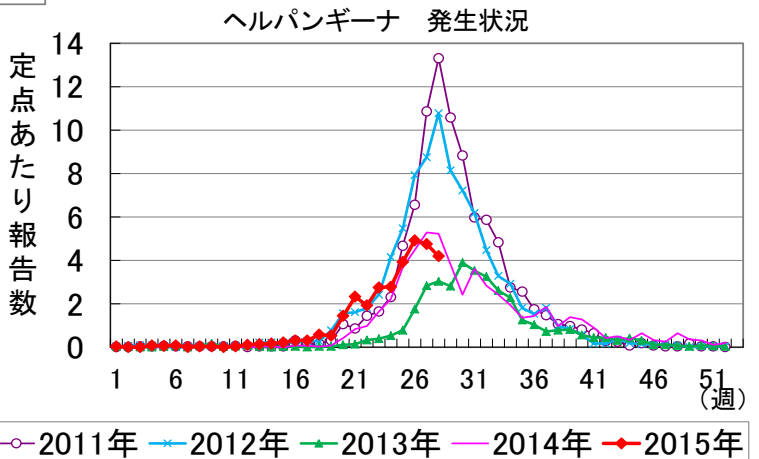
*過去 5 年間の当該週、前週、後週（計 15 週）の平均値。

《前週との比較》

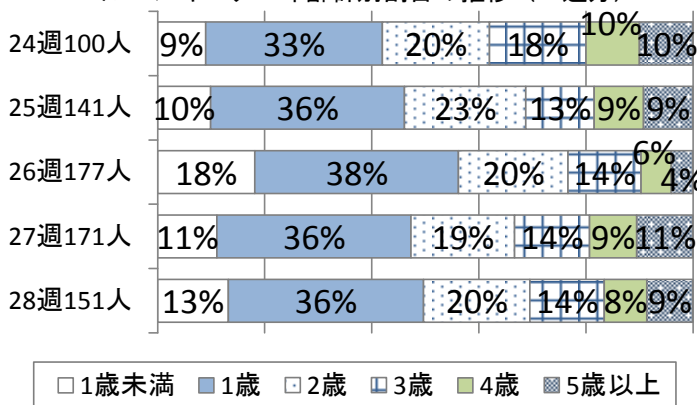


【ヘルパンギーナ】

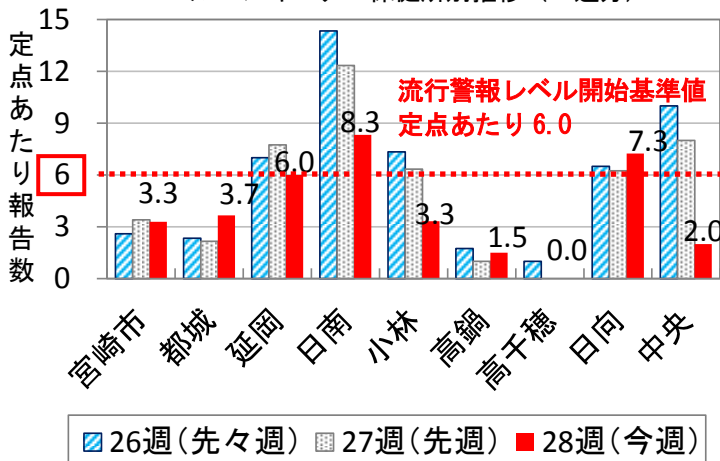
・報告数は 151 人（4.2）で、前週比 88%と減少した。例年同時期の定点あたり平均値*（6.4）の約 0.7 倍であった。日南（8.3）、日向（7.3）、延岡（6.0）保健所からの報告が多く、年齢別では 1～2 歳が全体の約 6 割を占めた。



ヘルパンギーナ 年齢群別割合の推移 (5週分)



ヘルパンギーナ 保健所別推移 (3週分)



★流行警報・注意報レベル基準値超過疾患★

保健所名	流行警報・注意報レベル基準値超過疾患
宮崎市	手足口病(9.8)
都城	なし
延岡	手足口病(13.3)、ヘルパンギーナ(6.0)
日南	手足口病(9.0)、伝染性紅斑(2.0)、ヘルパンギーナ(8.3)
小林	手足口病(12.7)、流行性耳下腺炎(9.3)
高鍋	なし
高千穂	なし
日向	手足口病(10.3)、ヘルパンギーナ(7.3)
中央	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(8.0)、手足口病(21.0)

* 流行警報レベル開始基準値 *

- ・A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(8.0)
- ・手足口病(5.0)
- ・伝染性紅斑(2.0)
- ・ヘルパンギーナ(6.0)
- ・流行性耳下腺炎(6.0)

□ 病原体検出情報 (衛生環境研究所微生物部 平成 27 年 7 月 13 日までに検出)

★ウイルス

同定ウイルス名	年齢	性別	採取月日	臨床症状 等	検出材料	検出日
コクサッキーA6型	0~4歳	男	2015.06.05	手足口病疑い、38.4℃、丘疹	咽頭ぬぐい液	2015.07.10
コクサッキーA9型	0~4歳	女	2015.05.18	ウイルス性発疹、発熱	咽頭ぬぐい液	2015.07.10
コクサッキーA9型	0~4歳	男	2015.05.19	エンテロウイルス感染症疑い、37.4℃	咽頭ぬぐい液	2015.07.09
コクサッキーA9型	0~4歳	女	2015.05.20	不明の発疹症、紅斑	咽頭ぬぐい液	2015.07.09
コクサッキーA9型	0~4歳	男	2015.05.21	エンテロウイルス感染症、発疹(紅斑)、下痢	咽頭ぬぐい液	2015.07.09
コクサッキーA9型	0~4歳	女	2015.05.30	不明の発疹症、紅斑	咽頭ぬぐい液	2015.07.01
コクサッキーA9型	0~4歳	女	2015.05.26	ウイルス性発疹、発熱	咽頭ぬぐい液	2015.07.10
コクサッキーA9型	0~4歳	女	2015.05.27	手足口病疑い、発疹	咽頭ぬぐい液	2015.07.10
コクサッキーA9型	0~4歳	女	2015.06.04	ウイルス感染症疑い、38.4℃、発疹	便	2015.07.10
コクサッキーA9型	0~4歳	女	2015.06.04	ウイルス感染症疑い、38.4℃、発疹	咽頭ぬぐい液	2015.07.10
コクサッキーA10型	0~4歳	女	2015.05.09	手足口病、口内炎、発疹(丘疹)	咽頭ぬぐい液	2015.07.01
コクサッキーA16型	0~4歳	男	2015.04.30	手足口病、38℃、発疹	咽頭ぬぐい液	2015.07.09
水痘・带状疱疹ウイルス	0~4歳	女	2015.05.08	水痘、陰部に水疱	水疱内容物	2015.07.06
パラインフルエンザ3型	0~4歳	男	2015.06.24	百日咳疑い、37.5℃、上気道炎(咽頭炎)、夜間の咳	咽頭ぬぐい液	2015.07.02
ライノウイルス	5~9歳	女	2015.05.26	不明の発疹症、紅斑	咽頭ぬぐい液	2015.07.09
ライノウイルス	0~4歳	男	2015.06.30	呼吸器感染、肺炎、40.1℃、上気道炎	鼻汁	2015.07.09

○手足口病（疑いも含む）の乳幼児4名から、それぞれコクサッキーA6型、A9型、A10型、A16型が分離・検出された。また、発疹症およびエンテロウイルス感染症疑いの乳幼児8名から、コクサッキーA9型が分離された。全国のエンテロウイルスの検出状況をみると、コクサッキーA16が一番多く、次いでA6、A10の順に多く認めるが、当所では、A9の分離が多い傾向にある。先月より手足口病や発疹症、エンテロウイルス感染症疑いの検体が増加しており、引き続き発生動向に注視していく必要がある。

○水痘と診断された乳児から水痘・帯状疱疹ウイルス（ヘルペスウイルス3型）が検出された。

○百日咳疑いの乳児からパラインフルエンザ3型が検出された。全国でみると、5月から6月にかけて検出数が増加している。当所では6月に1件検出されている。今後の発生動向に注意していく必要がある。

○呼吸器症状を伴う乳児と不明の発疹症の小児からライノウイルスが検出された。

★細菌

同定細菌名	年齢	性別	採取月日	臨床症状等	検出材料	同定日
EPEC(OUT:H40)	不明	女	2015.6.25	—	便	2015.7.10
EPEC(OUT:H6)	0～4歳	女	2015.6.27	—	便	2015.7.7
<i>Salmonella</i> Braenderup (O7:e,h:e,n,z15)	20歳代	女	2015.6.29	—	便	2015.7.7
<i>Salmonella</i> Infantis(O7:r:1,5)	0～4歳	男	2015.7.4	—	便	2015.7.9

2名の患者から腸管病原性大腸菌（EPEC）が分離された。EPECの判定基準は *eae*（インチミン遺伝子）陽性の大腸菌で、ST/LT/VTを持たない大腸菌とされている。EPECは細胞に強固に接着することで微絨毛などを破壊し下痢を引き起こす。乳幼児においてはしばしば重症化し、コレラ様の脱水症状が見られることもある。

🇯🇵 全国第27週の発生動向

□ 全数報告の感染症（全国第27週）

1類感染症	報告なし					
2類感染症	結核	368例				
3類感染症	細菌性赤痢	3例	腸管出血性大腸菌感染症	138例	腸チフス	1例
4類感染症	E型肝炎	3例	A型肝炎	1例	オウム病	1例
	コクシジオイデス症	1例	デング熱	9例	日本紅斑熱	5例
	マラリア	1例	レジオネラ症	36例		
5類感染症	アメーバ赤痢	18例	ウイルス性肝炎	8例	カルバペネム耐性腸内細菌感染症	21例
	急性脳炎	2例	クロイツフェルト・ヤコブ病	1例	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	3例
	後天性免疫不全症候群	17例	ジアルジア症	1例	侵襲性インフルエンザ菌感染症	2例
	侵襲性肺炎球菌感染症	18例	水痘（入院例）	6例	梅毒	46例
	播種性クリプトコックス症	2例	破傷風	2例	風しん	6例
	薬剤耐性アシネトバクター感染症	1例				

□ 定点把握の対象となる5類感染症

定点医療機関当たりの患者報告総数は前週比 103%とほぼ横ばいであった。前週と比較して増加した主な疾患は手足口病とヘルパンギーナで、減少した主な疾患は咽頭結膜熱と感染性胃腸炎であった。

手足口病の報告数は17,294人(5.5)で前週比120%と増加し、例年同時期の定点当たり平均値* (3.9)の約1.4倍と多い。福井県(15.0)、京都府(13.0)、香川県(11.1)からの報告が多く、年齢別では1～2歳が全体の約半数を占めた。

ヘルパンギーナの報告数は6,045人(1.9)で前週比129%と増加し、例年同時期の定点当たり平均値* (3.4)の約0.6倍と少ない。三重県(7.9)、福岡県(7.3)、愛媛県(6.2)からの報告が多く、年齢別では1～2歳が全体の約半数を占めた。

宮崎県 感染症情報

(72定点医療機関)

2015年 第28週(7月6日～7月12日)

疾病名		第27週	第28週	宮崎市	都城	延岡	日南	小林	高鍋	高千穂	日向	中央
インフルエンザ	報告数	4	11	4	7							
	定点あたり	0.07	0.19	0.25	0.70	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
RSウイルス 感染症	報告数	11	13	1				6			6	
	定点あたり	0.31	0.36	0.10	0.00	0.00	0.00	2.00	0.00	0.00	1.50	0.00
咽頭結膜熱	報告数	25	12	1	1	3	1				6	
	定点あたり	0.69	0.33	0.10	0.17	0.75	0.33	0.00	0.00	0.00	1.50	0.00
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	報告数	78	96	21	12	24	6		14		11	8
	定点あたり	2.17	2.67	2.10	2.00	6.00	2.00	0.00	3.50	0.00	2.75	8.00
感染性胃腸炎	報告数	318	250	50	43	7	29	46	31	2	26	16
	定点あたり	8.83	6.94	5.00	7.17	1.75	9.67	15.33	7.75	2.00	6.50	16.00
水痘	報告数	32	24	9	6	4	1	2	1			1
	定点あたり	0.89	0.67	0.90	1.00	1.00	0.33	0.67	0.25	0.00	0.00	1.00
手足口病	報告数	306	320	98	25	53	27	38	16	1	41	21
	定点あたり	8.50	8.89	9.80	4.17	13.25	9.00	12.67	4.00	1.00	10.25	21.00
伝染性紅斑	報告数	3	13	7			6					
	定点あたり	0.08	0.36	0.70	0.00	0.00	2.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
突発性発しん	報告数	33	45	12	11	7	7	1	4		2	1
	定点あたり	0.92	1.25	1.20	1.83	1.75	2.33	0.33	1.00	0.00	0.50	1.00
百日咳	報告数	1										
	定点あたり	0.03	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
ヘルパンギーナ	報告数	171	151	33	22	24	25	10	6		29	2
	定点あたり	4.75	4.19	3.30	3.67	6.00	8.33	3.33	1.50	0.00	7.25	2.00
流行性耳下腺炎	報告数	16	39	4	3	1		28	1	1		1
	定点あたり	0.44	1.08	0.40	0.50	0.25	0.00	9.33	0.25	1.00	0.00	1.00
急性出血性結膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00						
流行性角結膜炎	報告数	27	15	9	3	3						
	定点あたり	4.50	2.50	3.00	1.50	3.00						
細菌性髄膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
無菌性髄膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
マイコプラズマ肺炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
クラミジア肺炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	報告数	1										
	定点あたり	0.14	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	

インフルエンザ定点:59、小児科定点:36(インフルエンザ定点を兼ねる)、眼科定点:6、基幹定点:7

上段:報告数
下段:定点あたり報告数

●全数把握対象疾患累積報告数(2015年第1週～28週)

2類感染症	結核	111例(4)				
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	10例(1)				
4類感染症	A型肝炎	2例	重症熱性血小板減少症候群	4例	つつが虫病	3例
	日本紅斑熱	5例	マラリア	1例	レジオネラ症	2例
5類感染症	アメーバ赤痢	1例	ウイルス性肝炎	5例	急性脳炎	3例(1)
	クロイツフェルト・ヤコブ病	2例	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	3例	後天性免疫不全症候群	11例(3)
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1例	侵襲性肺炎球菌感染症	3例	水痘(入院例)	1例
	梅毒	4例	播種性クリプトコックス症	2例	破傷風	5例

()内は今週届出分、再掲

月報告対象疾患の発生動向 <2015年6月>

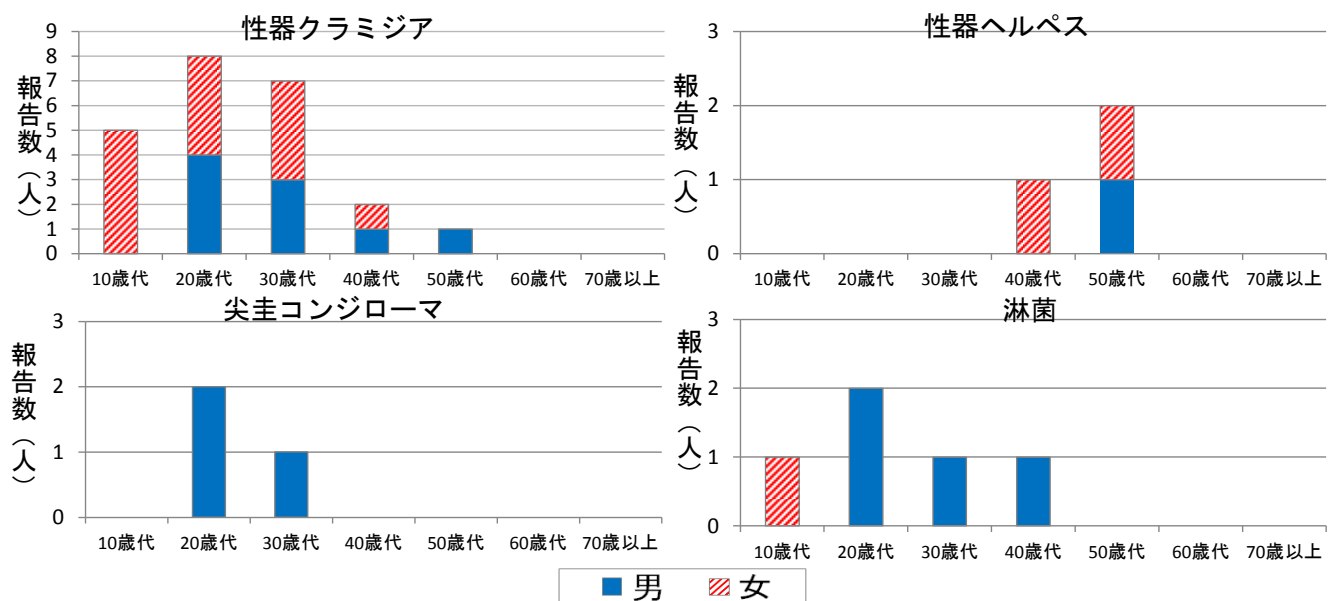
□性感染症

【宮崎県】 定点医療機関総数：13

定点医療機関からの報告総数は34人(2.6)で、前月比85%と減少した。また、昨年6月(3.3)の約0.8倍であった。

《疾患別》

- 性器クラミジア感染症：報告数23人(1.8)で、前月及び昨年6月の約0.9倍であった。年齢別では20歳代が全体の約4割を占めた。
(男性9人・女性14人)
- 性器ヘルペスウイルス感染症：報告数3人(0.23)で、前月の0.5倍、昨年6月の1.5倍であった。年齢別では50歳代が全体の約7割を占めた。(男性1人・女性2人)
- 尖圭コンジローマ：報告数3人(0.23)で、昨年6月の3.0倍であった(前月報告なし)。年齢別では、20歳代が全体の約7割を占めた。(男性3人)
- 淋菌感染症：報告数5人(0.38)で、前月の約0.7倍、昨年6月の約0.4倍であった。年齢別では20歳代が全体の約4割を占めた。(男性4人・女性1人)



【全国】 定点医療機関総数：976

定点医療機関からの報告総数は3,974人(4.1)で、前月比102%とほぼ横ばいであった。疾患別報告数は、性器クラミジア感染症2,043人(2.1)で前月比104%、性器ヘルペスウイルス感染症782人(0.80)で前月比99%、尖圭コンジローマ471人(0.48)で前月比96%、淋菌感染症678人(0.69)で前月比102%であった。

□薬剤耐性菌

【宮崎県】 定点医療機関総数：7

定点医療機関からの報告総数は18人(2.6)で前月比120%と増加した。また昨年6月(2.9)の0.9倍であった。

《疾患別》

- メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症：報告数17人(2.4)で、前月の約1.1倍、昨年6月の約1.2倍であった。70歳以上が全体の約7割を占めた。
- ペニシリン耐性肺炎球菌感染症：報告数1人(0.14)で、昨年6月の0.2倍であった(前月報告なし)。
- 薬剤耐性緑膿菌感染症：報告はなかった。

【全国】 定点医療機関総数：476

定点医療機関からの報告総数は1,567人(3.3)で、前月比105%とやや増加した。疾患別報告数は、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症1,365人(2.9)で前月比106%、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症183人(0.38)で前月比97%、薬剤耐性緑膿菌感染症19人(0.04)で前月比100%であった。